

平成27年8月24日

各 位

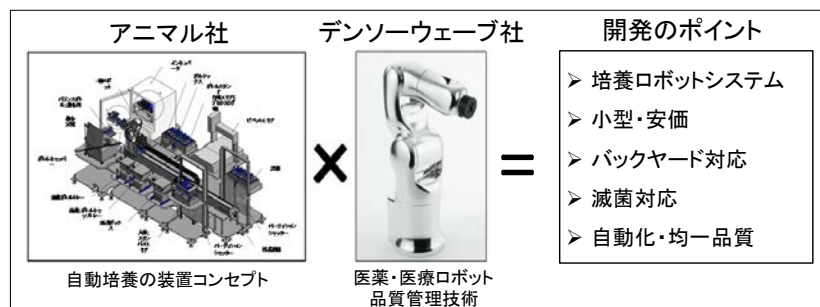
会社名 株式会社メディビックグループ
 代表者名 代表取締役社長 窪島 肇
 (コード番号 2369 : 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役 疋田 賢司
 (Tel: 03-5439-9691)

NEDO「ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト」 助成金採択に関するお知らせ

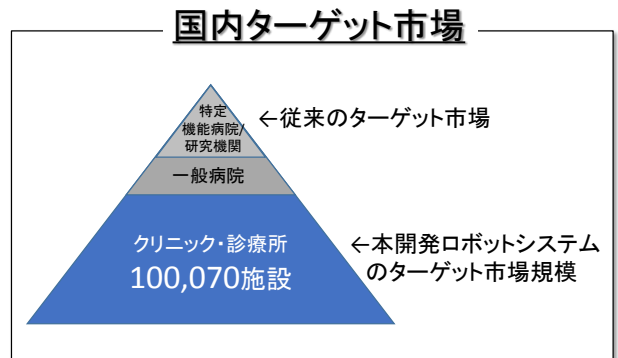
当社子会社である株式会社アニマルステムセル（以下「アニマル社」という。）は、株式会社デンソーウェーブ（本社；愛知県知多郡、以下「デンソーウェーブ社」という。）と共同で出願しておりました「再生医療バックヤード対応ロボットシステムの開発」が、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機能（NEDO）の「ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト」に採択されましたのでお知らせいたします。

NEDOによる当該支援事業は、政府のロボット革命実現会議^{*1}において取りまとめられ、2015年2月に日本経済再生本部にて決定された「ロボット新戦略」^{*2}において、2020年までにサービスなどの非製造分野においてロボット市場を20倍に拡大する数値目標のもと、新たにロボットを導入する業種・分野・工程の拡大を図るとともに、ロボット市場規模の増大を目的とするものです。

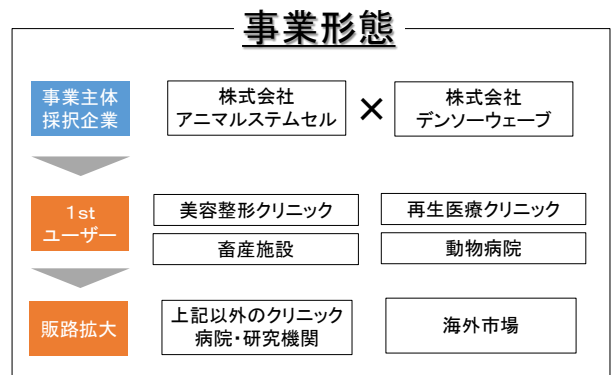
今回採択された事業では、アニマル社がこれまで進めてきた、再生医療分野における幹細胞自動培養の装置コンセプトと、デンソーウェーブ社が開発してきた医薬・医療ロボットや自動車産業にて培った品質管理技術を融合させ、クリニックなど小規模な医療機関でも導入が可能な小型で安価なロボットシステムの構築を目指します。これにより、国内クリニックや海外市場において、無人化・品質均一化でのロボット培養が可能となり、より安全かつ安価に再生医療の提供が可能となります。



アニマル社では、難治性疾患をターゲットとした再生医療などの先進医療が提供可能な特定機能病院や、大規模研究機関を想定した大型・高価格の自動培養コンセプト装置を開発済みですが、本採択事業では、クリニック規模に設置可能な小型で安価なロボットシステムを開発し、美容整形・アンチエイジング、動物医療分野・畜産分野などで身近に再生医療が受けられる環境の構築を目指します。クリニックや一般診療所は国内でも約 10 万施設あり、特定機能病院の 1200 倍以上の施設が存在するため、本開発ではこの領域をターゲットとし、再生医療の国内普及に貢献していきます。



事業としては、当採択において開発する培養ロボットシステム及び培養消耗品などの製造・販売を行っていきます。既にアニマル社で取引のある動物病院・畜産施設や当社（株式会社メディックグループ）で取引のあるクリニックなどターゲットユーザーからロボットシステムに対する機能仕様のヒアリングを行い、ユーザーニーズにマッチしたロボットシステムを提供していきます。さらに、海外販売網やグローバルネットワークで実績のある採択企業の関連会社協力のもと、販路拡大や欧米を中心に海外展開を目指していきます。



なお、本採択事業の実施期間は2015年9月から2018年3月までです。

本件に係る助成金額及びその確定時期、並びに当社グループの業績に与える影響につきましては調査中であり、これらについては、明らかとなり次第、発表いたします。

【用語解説】

※1 ロボット革命実現会議

2014年9月に内閣総理大臣決裁により設置された、ロボットを少子高齢化の中での人手不足やサービス部門の生産性の向上という日本が抱える課題の解決の切り札にすると同時に、世界市場を切り開いていく成長産業に育成していくための戦略を策定するための会議体。

※2 ロボット新戦略

ロボット革命実現会議において、約4ヶ月にわたる議論を踏まえ取りまとめられ、2015年2月10日に日本経済再生本部決定されたもの（アクションプランとしての5ヶ年計画を含む）。

以上